

8月7日（水） 大学都市「オックスフォード」訪問

今日は授業を早めに切り上げ、教室を離れて、大学都市オックスフォードを訪問しました。言わずと知れた、世界へ著名人を送り出している「オックスフォード大学」のある町です。町の中には 38 校のカレッジと 6 つの宗教大学の計 44 校があり、この集合体を“Oxford University”と呼びます。オックスフォード大学という校舎があるわけではなく、学生はそれぞれのカレッジに所属しながら、他のカレッジの講義に登録して授業を受けています。オックスフォードの人口は約 15 万人、そのうち学生数は約 1 万 8 千人です。また、不思議の国のアリスや、指輪物語、ナルニア物語などの作家がアイデアを育んだ街でもあります。



オックスフォードに到着すると、本日のツアーガイドをしてくれる現役オックスフォード大学生さん 2 名が合流しました。お一方は「Linacre College」で地理の博士号を勉強していて、もうひとり「Corpus Christie College」で医学を専攻している 4 年生です。高等部生達も現役のオックスフォード生達を目の前にやや緊張の面持ちで、「現役のオックスフォード生がガイドしてくれるなんて凄い！」と驚いていました。2 人が自己紹介を終えると、最初に向かったのが、1774 年に開業した屋根付きの「Covered Market」というマーケットを見学しました。

その後、卒業式や大学内のイベントが行われる「シェルドニアンシアター」、国内で 2 番目に大きい「ボードリアン・ライブラリー（図書館）」、読書室である「ラドクリフカメラ」、大学の教会「セント・メアリー」などを見学しました。町の至る所にカレッジが点在しており、どの校舎も石造りの立派な建物でした。オックスフォード大学生達の生活を垣間見られたようでした。



キャンパスツアーをしながら、大学の生活についての質問タイムを設けました。生徒さん達からは様々な質問がありました。

「サークルってありますか？」イギリス人の学生にとって、大学は勉強する場所だけではなく、クラブ活動等を通して、色々な異なる背景を持つ人と交流が出来ます。例えば、学生さんのひとは学部の交流イベントを計画し、サルサ・ダンス、マラソンで毎日忙しい生活を送っているそうです。他の大学と比べると、スポーツが盛んで、各カレッジでもスポーツ部があり、スポーツが元々得意でない学生でも気楽に参加できるということです。

生徒の皆さんの中には、学生ガイドさんから色々な大学生活のお話を聞く事ができ、「将来は、オックスフォード大学に留学したい！」と夢を描いた生徒もいたことでしょう。



次は、「不思議の国のアリス」の作者、ルイス・キャロルが数学の講師をしていた「クライストチャーチカレッジ」です。オックスフォード大学の中で最も美しいといわれるこのカレッジは、広大な敷地を持ち、牧草地やラグビー場、ボートハウスやリバー、生徒の寮から大聖堂まで、まるで小さな村の中にいるような錯覚にとらわれるほどです。その中でも特に有名な映画ハリーポッターの撮影でも使われた「ダイニングホール」に入り、写真をたくさん撮りました。生徒さんはハリーポッターのシーンがすぐに思い浮かぶようで、興味深そうに見学していました。更にホールのステンドグラスに隠れている不思議の国のアリスのキャラクター達を見つけたり、興味深そうに見学していました。



クライストチャーチを出ると、そのガイドの学生さんが通っているカレッジの外観を見学しながら、自分のカレッジやカレッジの成り立ちについて説明してくれました。各カレッジの敷地内には、学生のために、図書館、ダイニングホール、礼拝堂、そして生徒さん達が生活する寮が完備されています。また、それぞれのカレッジの広さが異なりますが、必ず「Quad」(クオド、中庭のこと)があります。カレッジ内にはWIFIが飛んでいるので、天気の良い日は外で勉強している学生達が多いようです。

最後に案内してくれたのは、オックスフォードの最古のカレッジと言われている「Merton College」の外観を見学しました。天皇陛下が皇太子時代にこのカレッジに留学をされていたようです。そして天皇陛下として即位された5月1日にはマートンカレッジのチャペルの鐘が1日中鳴り響いていたそうです。

その後の自由時間では「アリスショップ」を訪れて、お土産を購入したり、お友達とお揃いでTシャツを購入したりとショッピングも楽しみました。



オックスフォードは、古い建築物が街中いたるところに散りばめられており、生徒たちは、その長い歴史を肌で感じているようでした。いつの日か、オックスフォード大学に留学生として戻ってくる生徒さんがいるかもしれませんね！